



## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 ニチバン株式会社

コード番号 4218 URL <http://www.nichiban.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀田 直人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 管理本部長 (氏名) 酒井 寛規

TEL 03-5978-5601

四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	19,418	3.0	620	△17.4	632	△11.9	365	△10.7
25年3月期第2四半期	18,855	△0.3	751	△6.5	718	△8.2	408	△6.4

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 448百万円 (10.8%) 25年3月期第2四半期 404百万円 (2.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	8.81	—
25年3月期第2四半期	9.86	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	45,823	24,992	54.5	602.94
25年3月期	45,801	24,792	54.1	598.11

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 24,992百万円 25年3月期 24,792百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	6.00	6.00
26年3月期	—	0.00	—	6.00	6.00
26年3月期(予想)	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	3.9	2,000	12.8	2,000	11.0	1,100	11.2	26.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	41,476,012 株	25年3月期	41,476,012 株
26年3月期2Q	25,277 株	25年3月期	24,952 株
26年3月期2Q	41,450,967 株	25年3月期2Q	41,452,837 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記予想は本資料の作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

上記の業績予想に関する事項は、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10
(重要な後発事象) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政権交代後の経済対策・金融政策の実施を背景に円高是正と株価の上昇が進み、輸出産業を中心に一部の企業で業績の持ち直しもみられ、景気回復への期待感が高まっております。その一方で、雇用や所得環境は厳しい状況が続き、さらに消費税増税や電気料金の値上げ等の懸念が広がるなか、個人消費については景気回復を実感しにくい状況にあります。

このような状況のなか、当グループでは中長期経営計画【NB100】の中盤となる3ヵ年計画「Stage 2」がこの4月よりスタートしました。「Stage 2」では、収益性基盤を確かなものにする取組みとともに、開発・生産・営業の各機能と運営管理の強化を進めております。それとともに将来に向けた新たな「成長戦略」を次のとおり定めております。

#### 1) 大型開発品の創出

＊顧客に密着した新製品のスピーディーな開発と市場育成

#### 2) 大型設備投資の着手

＊原価低減・環境対応・危機管理を意図した生産方式の更新

#### 3) 海外新規市場の開拓

＊アジア・欧州をターゲットにしたメディカル製品を積極拡大

当第2四半期連結累計期間におきましては、この戦略に基づく課題に取り組んでまいりました結果、売上高は、メディカル事業と海外輸出が好調に推移したことにより、194億1千8百万円（前年同期比3.0%増）となりました。利益面におきましては、販売費の増加と円安による為替の影響により、経常利益は6億3千2百万円（前年同期比11.9%減）、四半期純利益は3億6千5百万円（前年同期比10.7%減）と前年同期実績を下回りました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### メディカル事業本部

##### (ヘルスケアフィールド)

ヘルスケアフィールドにおきましては、個人消費の回復は十分実感することができず、さらにドラッグストアを中心とする販売店の競争に加え、一般医薬品のインターネット販売が解禁となり、さまざまなチャネルで激しく競い合う厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、テレビCMを始めとした消費者への告知を積極的に行った救急絆創膏「ケアリーヴ<sup>®</sup>」シリーズと、販売店店頭での販売促進活動を展開した「ロイヒ<sup>®</sup>」シリーズが好調に推移いたしました。

##### (医療材フィールド)

医療材フィールドにおきましては、医療機関が医療材料費を抑制する動きが進んでおりますが、医療現場では感染予防と安全性への意識が引き続き高い状況が続いております。

このような状況のなか、感染管理・安全な医療に貢献する「高透湿」「高固定」「低刺激」の3つの思いやりをさらにプラスしたドレッシングフィルム「カテリープラス<sup>®</sup>」が好調に推移するとともに、看護師がグローブを外すことなく軽い力でまっすぐ切れる極低刺激性サージカルテープ「スキナゲート<sup>®</sup>スパット」を全国発売し、好評をいただいております。

以上の取組みを実施してまいりました結果、ヘルスケアフィールドと医療材フィールドを合わせたメディカル事業本部全体の売上高は68億1千4百万円（前年同期比4.5%増）、セグメント利益（営業利益）は11億2千6百万円（前年同期比6.7%減）となりました。

#### テープ事業本部

##### (オフィスホームフィールド)

オフィスホームフィールドにおきましては、継続してマスコミが機能性・話題性の高い文房具を特集していることで、一部の付加価値商品に需要が集まりましたが、全般的には主力ユーザーである官公庁・事業所の需要が減少し、低価格商品へシフトする非常に厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、販売店店頭での販売促進活動を積極的に行ったテープのり「tenori<sup>®</sup>はんこのり<sup>®</sup>」が好調に売上を伸ばし、34年ぶりのデザイン変更が話題となっている「セロテープ<sup>®</sup>小巻カッター付」を含め、「セロテープ<sup>®</sup>」が順調に推移いたしました。

## (工業品フィールド)

工業品フィールドにおきましては、円安により輸出が中心となる一部の業界で回復が見られるものの、産業用テープ業界全体としては非常に厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、クラフトテープと布テープを中心とした主力の包装用テープは堅調に推移いたしました。また取組み課題としている食品関連は、市況の厳しいなか前年売上を確保し、マスキング分野は、市場のシュリンクと新車生産量の減少により非常に厳しい状況で推移いたしました。

以上の取組みを実施してまいりました結果、オフィスホームフィールドと工業品フィールドを合わせましたテープ事業本部全体の売上高は126億4百万円（前年同期比2.2%増）、セグメント利益（営業利益）は7億8千2百万円（前年同期比4.0%減）となりました。

また海外輸出におきましては、ターゲットとするアジア各国へのメディカル製品展開の準備も順調に進み、徐々にではありますが新規市場での実績も上がってきております。テープ製品におきましては、円安の後押しとともにアジア・欧州を中心とする需要が復調してきたこともあり、売上は好調に推移いたしました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金や売上債権は減少しましたが、たな卸資産や固定資産が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ2千1百万円増加し、458億2千3百万円となりました。また純資産は1億9千9百万円増加し、249億9千2百万円になりました。この結果、自己資本比率は54.5%となりました。

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ1千9百万円（0.2%）減少し、98億6千万円となりました。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ4億3千6百万円（29.5%）減少し、10億4千4百万円となりました。これは主にたな卸資産と法人税等の支払額が増加したことによるものです。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ6億5千5百万円（48.3%）減少し、7億1百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が減少したことによるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ2千万円（6.1%）増加し、3億6千3百万円となりました。これは主にその他（リース債務の返済による支出）が増加したことによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

景気回復とともに国内経済の持ち直しが期待されるところですが、石油製品を中心とする原材料価格や燃料費の高騰、さらには来年4月の消費税率アップへの対応など、当社を取巻く環境は依然として予断を許さない状況が予想されます。

このような経営環境のなか、当グループは中長期経営計画【NB100】「Stage2」の初年度として、「基盤となる事業の効率化・安定化」による売上拡大と経営環境に左右されない収益構造の強化による利益確保を推進してまいります。また、『信頼され期待される企業』を目指し、「企業ブランドの向上」に取り組むとともに、将来に向けた「成長戦略」を確実に実行してまいります。

以上により、平成26年3月期の連結業績予想につきましては、平成25年5月13日の公表時点から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,653	9,633
受取手形及び売掛金	12,481	11,790
有価証券	506	506
商品及び製品	2,897	3,196
仕掛品	1,278	1,306
原材料及び貯蔵品	1,094	1,226
その他	818	816
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	28,727	28,475
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,416	5,406
その他(純額)	6,978	7,210
有形固定資産合計	12,395	12,616
無形固定資産		
投資その他の資産	232	214
固定資産合計	4,445	4,516
固定資産合計	17,073	17,347
資産合計	45,801	45,823
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,481	7,371
未払法人税等	333	241
役員賞与引当金	64	36
その他	4,239	4,530
流動負債合計	12,119	12,179
固定負債		
長期借入金	2,000	2,000
退職給付引当金	3,199	3,013
役員退職慰労引当金	93	70
長期預り保証金	2,919	2,958
資産除去債務	92	92
その他	585	516
固定負債合計	8,889	8,651
負債合計	21,009	20,831

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,451	5,451
資本剰余金	4,186	4,186
利益剰余金	15,204	15,320
自己株式	△8	△8
株主資本合計	24,834	24,950
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	108	124
為替換算調整勘定	△150	△82
その他の包括利益累計額合計	△42	41
純資産合計	24,792	24,992
負債純資産合計	45,801	45,823



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	18,855	19,418
売上原価	13,553	13,997
売上総利益	5,302	5,420
販売費及び一般管理費	4,551	4,800
営業利益	751	620
営業外収益		
受取利息	10	10
受取配当金	6	6
持分法による投資利益	5	37
その他	22	25
営業外収益合計	44	80
営業外費用		
支払利息	25	23
支払手数料	31	31
その他	21	12
営業外費用合計	78	67
経常利益	718	632
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除売却損	42	45
特別損失合計	42	45
税金等調整前四半期純利益	675	587
法人税等	266	222
少数株主損益調整前四半期純利益	408	365
四半期純利益	408	365

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	408	365
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11	15
持分法適用会社に対する持分相当額	7	68
その他の包括利益合計	△3	83
四半期包括利益	404	448
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	404	448

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	675	587
減価償却費	836	866
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△158	△185
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△5	△23
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△0
有形固定資産除売却損益(△は益)	10	39
受取利息及び受取配当金	△17	△17
支払利息	25	23
売上債権の増減額(△は増加)	531	690
たな卸資産の増減額(△は増加)	△0	△459
仕入債務の増減額(△は減少)	△249	△110
その他	△24	△39
小計	1,623	1,371
利息及び配当金の受取額	17	17
利息の支払額	△26	△23
法人税等の支払額	△132	△320
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,481	1,044
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△279	△318
定期預金の払戻による収入	316	318
有形固定資産の取得による支出	△1,384	△691
投資有価証券の取得による支出	△1	△0
投資有価証券の売却による収入	—	2
その他	△7	△12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,357	△701
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	2,000	—
長期借入金の返済による支出	△2,000	—
配当金の支払額	△248	△248
その他	△94	△115
財務活動によるキャッシュ・フロー	△342	△363
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△218	△19
現金及び現金同等物の期首残高	10,245	9,879
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,026	9,860

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル事業本部 (百万円)	テーブ事業本部 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	6,518	12,337	18,855	—	18,855
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	33	37	71	△71	—
計	6,551	12,375	18,926	△71	18,855
セグメント利益	1,207	815	2,023	△1,271	751

(注) 1. セグメント利益の調整額1,271百万円には、セグメント間取引消去71百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用1,200百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル事業本部 (百万円)	テーブ事業本部 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	6,814	12,604	19,418	—	19,418
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	38	38	76	△76	—
計	6,852	12,642	19,495	△76	19,418
セグメント利益	1,126	782	1,908	△1,288	620

(注) 1. セグメント利益の調整額1,288百万円には、セグメント間取引消去76百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用1,211百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。